

吉田睦先生略歴

略歴

- 1958年 千葉県市川市に生まれる
1974年 神奈川県立湘南高校入学
1977年 神奈川県立湘南高校卒業
1977年4月 京都大学文学部入学
1981年3月 京都大学文学部卒業
1981年4月 外務省入省
1982年7月 在ソ連邦日本国大使館 (1984年6月まで)
1984年7月 在ソ連邦ナホトカ市日本国総領事館 (1986年8月まで)
1988年8月 内閣官房内閣情報調査室 (出向) (1990年8月まで)
1992年9月 外務省退職
1992年11月 ロシア連邦科学アカデミーロシア史研究所学位請求資格研修員
1994年3月 ロシア連邦科学アカデミー民族学人類学研究所大学院入学
1997年9月 ロシア連邦科学アカデミー民族学人類学研究所大学院修了
1999年4月 千葉大学文学部助教授
2006年4月 千葉大学文学部准教授
2009年4月 千葉大学文学部教授
2015年4月 在外研究 (ケンブリッジ大学) (2016年3月まで)
2017年4月 千葉大学大学院人文科学研究院教授 (2024年3月まで)
2021年4月 千葉大学人文公共学府地域研究センター長 (2024年3月まで)

学会関係

- 2016年 ~2022年3月 日本シベリア学会幹事
2019年6月~2022年3月 日本シベリア学会会長

委員歴

学内 (委員長以上)

日本文化学科長、教務委員長、日本・ユーラシア文化コース長、広報・情報委員長
各種人事委員会委員長

学外

2009年3月 北方民族博物館研究協力員

2011～2014年 北方民族博物館・北方民族文化シンポジウム運営委員
(第26～29回「環境変化と先住民の生業文化」)

吉田睦先生著作目録

著書 (単著・共著)

1. З.П. Соколова (ред.), Социально-экономическое и культурное развитие народов Сибири и Севера: традиция и современность. Москва: Институт этнологии и антропологии РАН 1995.
担当: А.Ёсида, Современная ситуация традиционной культуры питания Гыданских ненцев (Ямало-Ненецкий А.О.)
(Z.P.ソコロヴァ編『シベリア北方諸民族の社会・経済的及び文化的発展: 伝統と現代性』1995. モスクワ: ロシア科学アカデミー民族学・人類学研究所出版)
(担当: 吉田睦 (露文)「ギダン半島 (ヤマル・ネネツ自治管区) のネネツの伝統的食文化の現状」77-117)
2. Ацуси ЁСИДА, Культура питания гыданских ненцев (интерпретация и социальная адаптация). Москва: Институт этнологии и антропологии РАН. 1997. 252 с.
(吉田睦『ギダン・ネネツの食文化 解釈と社会適応』(露文) 1997. モスクワ: 民族学人類学研究所出版 252 頁 (単著))
3. Народы Сибири (Сибирский этнографический сборник 8) Книга 3, Москва: Институт этнологии и антропологии РАН, 1997. 304 с.
担当: А.Ёсида, В поисках предков гыданских ненцев (по литературным источникам). Стр.140-170.
(『シベリア諸民族 (シベリア民族学論集 8) 第3巻』1997. モスクワ: 民族学人類学研究所出版 304 頁)
(担当: ギダン・ネネツの祖先の探求 (文献資料に基づく研究) 140-170)
4. 『トナカイ牧畜民の食の文化・社会誌～西シベリア・ツンドラ・ネネツの生業と食の比較文化～』2003. 彩流社 274+28 頁 (単著) ISBN: 4882028093
5. 『北アジアにおける人と動物のあいだ』小長谷有紀 (編) 2002. 東方書店 367 頁 (共著) ISBN: 4497202135
担当: 「シベリア先住民における魚の禁忌と聖性」(43-71 頁)
6. Е. А. Пивнева, Д. А. Функ (отв. ред.), В поисках себя: народы Севера и Сибири в постсоветских трансформациях. Москва: Наука, 2005. ISBN: 5020335185.
担当: А.Ёсида: Современное оленеводство тазовских ненцев стр.40-64.
(Е.А.ピヴネヴァ、D.A.フンク編 2005.『自己の探求: ポストソヴィエト期の変革におけるシベリア・北方諸民族』モスクワ: ナウカ社 216 頁)

- (担当:「ターズ・ネネツ人の現代トナカイ牧畜」(40-64頁))
7. 『極北(世界の食文化 20)』岸上伸啓(責任編集)2005. 農山漁村文化協会 253頁 ISBN: 9784540050060
担当:「第4章西シベリアの先住民族」(161-206頁)
8. 『ヨーロッパ(講座世界の先住民族 06)』綾部恒雄(監修)、原聖、庄司博史(編)2005. 明石書店 421頁 ISBN: 4750321346
担当:「19ネネツ(極北のトナカイ遊牧民)」(336-351頁)
9. 『東北アジア(朝倉世界地理講座-大地と人間の物語 2)』岡洋樹、境田清隆、佐々木史郎(編)2009. 朝倉書店 391頁 ISBN: 97842541679242009
担当:「第3章3.2石油・天然ガス開発とツンドラの荒廃」(99-108頁)
「第4章4.1帝政期ロシアのシベリア統治」(119-129頁)
10. 『開発と先住民(みんなく実践人類学シリーズ7)』岸上伸啓(編著)2009. 明石書店 365頁 ISBN: 9784750330907
担当:「第2章ロシア・西シベリアにおける石油・天然ガス開発とトナカイ牧畜民」(35-61頁)
11. E. A. Пивнева (отв. ред.) Этнокультурное наследие народов Севера России: к юбилею доктора исторических наук, профессора З. П. Соколовой, Российская акад. наук, Ин-т этнологии и антропологии им. Н. Н. Миклухо-Маклая. - Москва: ИЭА, 2010. 304 с., ISBN: 978-5-4211-0028-7.
担当: А.Ёсида, Оленеводство ламыхинской группы эвенов в современных условиях (ГУП «Себян»). С.221-234.
(E.A.ピヴネヴァ編『ロシア北方諸民族の民族文化遺産 (Z.P.ソコロヴァ歴史学博士・教授生誕80周年記念)』モスクワ:民族学・人類学研究所出版)
(担当:「現代的条件におけるラムィヒン・エヴェンのトナカイ牧畜(セビャンキュヨリ村国営企業「セビャン」)」(221-234頁))
12. 『極寒のシベリアに生きる: トナカイと氷と先住民』高倉浩樹(編著)2012. 新泉社 257+13頁 ISBN: 9784787711120
担当: 第6章「シベリアのトナカイ牧畜・飼育と開発・環境問題」(137-156頁)
13. Н.В.Лукина (ред.), Исследования по культуре ненцев: сборник статей / Гос. казенное учреждение Ямало-Ненецкого авт. округа "Науч. центр изучения Арктики" Санкт-Петербург: Историческая иллюстрация. 2014. 286с., ISBN: 978589566141.
担当: А.Ёсида, Этническая история тазовских ненцев. С.113-129.
А.Ёсида, Этническая культура тазовских ненцев и ее трансформация. С.130-151.
(N.V.ルキナ編『ネネツ文化研究論集』2014. サンクト・ペテルブルグ:イストリーチェスカヤ・

- イリュストラッツィヤ社 286 頁)
(担当:「ターズ・ネネツ人-民族の歴史」(113-129 頁)
「ターズ・ネネツ人-民族文化とその変容」(130-151 頁))
14. 『食と儀礼をめぐる地球の旅:先住民文化からみたシベリアとアメリカ』高倉浩樹、山口未花子
(編) 2015. 東北大学出版会 219 頁 ISBN: 9784861632501
担当:2.「シベリア・トナカイ牧畜先住民における食の多様な世界」(33-59 頁)
15. 『シベリア:温暖化する極北の水環境と社会』檜山哲哉、藤原潤子(編著) 2015. 京都大学学術
出版会 512 頁 ISBN: 9784876983155
担当:第 11 章「資源動物利用に関わる環境変動と住民の適応」(385-420 頁)
16. 『ロシア(世界の地誌シリーズ 9)』加賀美雅弘(編)2017. 朝倉書店 177 頁 ISBN: 9784254169294
担当:第 4 章「世界の穀倉地帯 ロシアとその周辺:ウクライナ、中央アジア」、「モスクワ市内
のパン事情」(コラム)、(37-52 頁)
第 10 章「多様な民族と地域文化」、「多民族国家ロシアーモスクワの民族料理店事情」(コラム)
(128-142 頁)
17. T. Hiyama, H. Takakura (eds), *Global Warming and Human-Nature Dimension in Northern Eurasia*
(*Global Environmental Studies*) 2017. Springer. 224p. ISBN: 9789811046483.
担当:A. Yoshida, “Chapter 9 Reindeer Herding and Environmental Change in Reindeer Herding Regions
of the Sakha Republic: Comparison with the Yamal-Nenets Autonomous District” (145-160 頁)
18. 『アジアとしてのシベリア:ロシアの中のシベリア先住民世界(アジア遊学 227)』永山ゆかり、
吉田睦(編) 2018. 勉誠出版 271 頁 ISBN: 9784585226932
担当:「はじめに(シベリア～ロシアとアジアの狭間で～)」(4-9 頁)
「シベリア史における先住民の成立ー先住民概念と用語について」(66-81 頁)
19. 『食の世界を生きる:食の人類学への招待』河合利光(編) 2021. 時潮社 229 頁 ISBN:
9784788807495
担当:第 4 章 1「食環境の変化と共生」(170-189 頁)
20. 『北極域の研究ーその現状と将来構想』北極研究コンソーシアム長期構想編集委員会(編) 2024.
海文堂出版. (印刷中)
担当:3.2.2「ユーラシアの北極地域」(218-224 頁)
5.2.3「河川・湖沼の氷上の利用とその持続可能性」(295-297 頁;一部執筆)
5.2.4「経済開発にともなう環境汚染と災害リスク」(297-299;一部執筆)

論文

1. 「シベリア・北方少数民族、もう一つの民族問題」1995.1『ユーラシア研究』6: 637-641
2. 「ギダン半島のトナカイ飼育ネネツ（ヤマロ・ネネツ自治管区）の食文化の現況」1996.3 齋藤農二編『シベリアへのまなざし—シベリア牧畜民の民族学的研究』（平成5-7年度科学研究費補助金成果報告書）156-164
3. 「西シベリア・ギダン・ネネツの食文化：現代極北トナカイ飼養民の食の文化的・社会的解釈」1998.6『民族学研究』63(1): 44-66
4. 「ロシア連邦先住民基本法の採択とロシア先住民の法的地位」2000.3 齋藤農二編『シベリアへのまなざし2—シベリア狩猟・牧畜民の生き残り戦略の研究』（平成9～11年度科学研究費補助金成果報告書）28-44
5. A.Yoshida, “Some Characteristics on the Tundra Nenets Reindeer Herders of Western Siberia and their social adaptation.” 2001.12 *Senri Ethnological Studies*, 59: 67-80.
6. 「ロシア・トナカイ遊牧ネネツの食の現状と構造」2001.12（財）味の素の文化センター『食文化助成の報告』12: 73-80
7. 「遊牧ネネツの食文化（上）極北の牧畜生活と獣肉・魚肉の生食文化」2003.5『Vesta』50: 62-67
8. 「遊牧ネネツの食文化（下）移動生活者の食の空間と調理法」2003.8『Vesta』51: 68-71
9. 「極北トナカイ遊牧民の食文化—ロシア・西シベリアのツンドラ・ネネツの生活と食の現状」2003『食生活研究』23(3): 11-19
10. 「シベリア・ネネツのトナカイ飼育の現在—個人経営の現状とその特徴」2003.3 井上紘一編『社会人類学からみた北方ユーラシア世界』67-77 北海道大学スラブ研究センター
11. 「ロシアの異民族（先住民）統治史における『非定住民』：概要と西シベリアの状況」2003.11 岡洋樹・高倉浩樹・上野稔弘編『東北アジアにおける民族と政治』東北アジア研究シリーズ5: 89-109 東北大学東北アジア研究センター
12. 「ネネツのトナカイ牧畜—トナカイの個体認識と親和性」2005.3『Arctic Circle』54: 4-9
13. 「極北牧畜民の魚食文化」2006.5『ビオストーリー』5: 92-93
14. 「シベリアの牧畜民とトナカイ—家族経営の牧畜民と家畜との共存」2006.10『季刊東北学』（特集 家畜とペット）9: 136-146
15. 「ツンドラ・ネネツのトナカイ牧畜：群管理の構造と実態：2005年ギダン・ネネツ春季キャンプ調査報告」2006.10『千葉大学ユーラシア言語文化論集』9: 31-56
16. 「ネネツ—経済自由化にともなうトナカイ牧畜とその変化」2008.3『季刊民族学』（特集 ロシア北方の民—ソ連崩壊後の激動期を経て）32(2): 20-24
17. 「極北の環境とロシアにおけるトナカイ牧畜—西シベリアとサハ共和国の事例から—」2011.3『Arctic Circle』（特集 北方民族と環境4）78: 4-9

18. 「サハ共和国北部におけるトナカイ飼育と環境変化」2011.3『温暖化するシベリアの自然と人—水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応』（平成22年度FR研究プロジェクト報告）141-149
19. 「森林ネツ(ロシア・西シベリア)のトナカイ牧畜—先行研究概説—」2009.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』11: 1-20
20. 「ユーラシア(徳永)文庫とシンポジウム開催」2010.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』12: 1-3
21. 「シベリア・極北地域関係蔵書について」2010.3『千葉大学ユーラシア言語文化論集』12: 27
22. 「西シベリア・トナカイ牧畜民=ツンドラ・ネツの採捕活動と環境変化(環境変化と先住民の生業文化: 陸域生態系における適応)」2012.3.『北方民族文化シンポジウム報告書』26: 25-30
23. A. Yoshida, “Reindeer Herding and Environmental Change in Kobyai and Olenek districts, Sakha Republic”. 2012.3 *1st International Conference on Global Warming and the Human-Nature Dimension in Siberia. Social Adaptation to the Changes of the Terrestrial Ecosystem with an Emphasis on Water Environments*, 99-103.
24. 「ロシア、ツンドラ・ネツにおけるトナカイ牧畜文化の存続と変化: サハ共和国との比較の中で(環境変化と先住民の生業文化: 家畜飼育・牧畜における適応)」2014.3.『北方民族文化シンポジウム網走報告』28: 37-42
25. 「本邦における氷下(こおりした)漁撈(概論)」2015.3『千葉大学人文研究』44: 135-173
26. 「網走湖とその周辺における氷下漁: 環境依存型漁獲活動としての考察」2018.『北海道立北方民族博物館研究紀要』27: 1-14
27. 「ロシア、ヤマル・ネツ自治管区における個人経営トナカイ牧畜の変遷—最近の公式統計に基づく若干の分析—」2020.12『千葉大学ユーラシア言語文化論集』22: 1-18
28. 「日本の北方研究における千葉大学の役割」2022.3『北方民族文化シンポジウム網走報告書』35: 65-71

事典類

1. 『世界民族事典』綾部恒雄監修、弘文堂. 2000
担当箇所: 「エネツ」(122r) 「ガナサン」(163l) 「ネネツ」(492mr)
2. 『文化人類学文献事典』小松和彦他(編)、弘文堂. 2004
担当箇所: 「ザイカー(J. ZIKER) Peoples of the Tundra.」(427r)
「ゴロブニョフ(A.V.GOLOVNEV) & オシェレンコ(G.OSHERENKO) Siberian Survival: The Nenets and their story.」(425r)

3. 『世界民族百科事典』国立民族学博物館（編）丸善出版. 2014
担当箇所：「資源問題」（632-633 頁）
4. 『ロシア文化事典』沼野充義他編 2019.丸善出版
担当箇所：「狩猟・漁労・牧畜」（72-73 頁）
5. 『世界冠婚葬祭事典』川田牧人、松田素二（編）丸善出版. 2023
担当箇所：「シベリア」（334-337 頁）
6. 『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』服部倫崇・吉田睦（編）
明石書店. 2024
担当箇所：コラム「シベリアの淡水魚とその利用ーロシア人と先住民の利用法」（60-63 頁）
29「極東・シベリアの先住少数民族の生活・生業様式」（148-152 頁）
49「ヤマル・ネネツ自治管区」（260-264 頁）

その他

1. 「〈書評〉高倉浩樹著『社会主義の民族誌：シベリア・トナカイ飼育の風景』東京都立大学出版会、2000 年」2000.11『上智史學』45: 159-167
2. 「遊牧ネネツという少数民族の世界ーロシア極北ツンドラ住人への旅」2003.7『窓』125: 2-8
3. 「西シベリア・ネネツのトナカイ牧畜ーソ連解体後の動きと開発」2007. 民博通信』117: 12-13
4. 「御子柴先生を送る」2011.3『言語文化論叢』5: 9-11

写真展

- 2008 年 1~2 月 千葉大学ユーラシア学会主催写真展「ユーラシアの十字路（クロスロード）諸民族の現在」（於千葉大学附属図書館）
- 2017 年 2~3 月 文学部日本・ユーラシア文化コースユーラシア言語文化専修主催写真展「ユーラシア民族文化写真展~寒冷環境の克服と利用~」（於千葉大学附属図書館）
- 2021 年 12 月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ノーヴィイ・ウレンゴイ市文化部主催
（小中学校向けイベント）「ヤマルの諸民族文化」の一部としての「日本の民族学者吉田睦写真展」

WEB 公開資料

東北大学東北アジア研究センター地域研究デジタルアーカイブ
「ヤマル・ネネツ自治管区におけるツンドラ・ネネツ人：生活様式と生業」
<https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/collection/tundranenets>

吉田睦先生フィールド調査実績

*ロシア連邦におけるトナカイ牧畜民調査

- ① 1993年7～8月 ロシア連邦サハ共和国、エベノ・ブイタantai地区、ゴールヌイ地区、(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- ② 1994年4月 ロシア連邦サハ共和国ニユルバ地区(サハ人馬飼育調査)
- ③ 1994年7～8月 ロシア連邦サハ共和国チェルスキー地区、アンドリユーシキノ地区(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- (①～③斎藤農二科研費及び「シベリア牧畜民の民族学的研究」(1993-1995)による)
- ④ 1995年3～4月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(ツンドラ・ネネツ人トナカイ牧畜民調査)
- ⑤ 1996年6～7月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- ⑥ 1997年12～1998年1月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- ⑦ 1998年3月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区サレハルド市(トナカイ牧畜民文献調査)
- (⑥～⑦斎藤農二科研費「シベリア狩猟・牧畜民の生き残り戦略の研究」(1997-1999)による)
- ⑧ 2001年10～11月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- (味の素食の文化センター研究助成(2001年度)による)
- ⑨ 2005年3月～5月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区(トナカイ牧畜民調査)
- (2004年度日本学術振興会二国間交流事業〔特定国派遣〕による)
- ⑩ 2008年3月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区プール地区(森林ネネツ人トナカイ牧畜民調査)
- (吉田睦科研費『極北先住民の生存・共生システムとしてのトナカイ牧畜文化の研究』(2007-2009))
- ⑪ 2009年7～8月 ロシア連邦サハ共和国コビヤイ地区ラムインヒン・エヴェン民族区(エヴェン人トナカイ牧畜民調査)
- ⑫ 2010年8～9月 ロシア連邦サハ共和国オレニョク・エヴェンキ民族地区(エヴェンキ人トナカイ牧畜民調査)
- ⑬ 2013年2～3月 ロシア連邦サハ共和国オレニョク・エヴェンキ民族地区(トナカイ牧畜民調査)
- (⑪～⑬総合地球環境学研究所プロジェクト、檜山哲也代表「温暖化するシベリアの自然と人—水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応」(2009-2013)による)

⑭ 2016年8～9月 ロシア連邦ヤマル・ネネツ自治管区ターズ地区（ツンドラ・ネネツ人トナカイ牧畜民調査）

⑮ 2017年8～9月 ロシア連邦モスクワ市・チュメニ市・サレハルド市（トナカイ牧畜民文献調査）

（⑭～⑮平田昌弘科研費「乳文化の視座からの牧畜論考—全地球的地域間比較による新しい牧畜論の創生」（2014-2019）による）

*本邦における氷下漁業調査

⑯ 2013年8月 秋田県八郎潟（八郎潟における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑰ 2014年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖における氷下漁業調査）

⑱ 2014年3月 長野県諏訪湖（諏訪湖における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑲ 2014年8月 青森県小川原湖（小川原湖における氷下漁業に関する文献・聞き取り調査）

⑳ 2015年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖における氷下漁業調査）

㉑ 2017年1月 北海道網走市（網走湖、能取湖、サロマ湖における氷下漁業調査）

（⑯～㉑吉田睦科研費「気候変動条件下における氷下漁の環境文化論的研究」（2013-2017）による）